

## 富田地区むらづくり推進協議会

### 【平成27年度実施事業】

- ・ 地域のお宝再整備事業（木落区）
- ・ 地域のお宝環境整備事業（蕨生区）
- ・ とみたのお宝発信事業

### 1. 基本データ

- (1) 地区名 富田地区
- (2) 地区人口 3, 138人
- (3) 地区世帯数 886世帯  
(平成27年7月1日住民基本台帳)
- (4) 面積 21.7k㎡
- (5) 地区の沿革

富田地区は、東は九頭竜川、西は真名川の二大河川に挟まれ、日本百名山に数えられる荒島岳のふもとから、東西約4km南北約7kmに細長く広がる純農村地帯。

- (6) 実施主体

富田地区むらづくり運動推進協議会



### 2. 現状と課題

富田地区むらづくり運動推進協議会では、

市民憲章を基調とし、富田地区の将来にわたって明るく豊かな地域の実現を図るため、地区住民が、自らの手による活気ある地域づくりの推進に努めている。

しかし、各集落においては、区長を中心として様々な地域づくりに関する活動が行われていることに対し、富田地区全体となると、「花いっぱい運動」等の環境美化作業や「とみた夏まつり」以外には特筆すべき地域づくりの活動も見られず、協議会もそれらの運営に終始し、イベント終了後には活動が低調になっている。

この状況から脱却し、地域が一体となって取り組む、新たな地域づくりの方策を模索しているところである。



とみた夏まつり「みんなで踊ろう大野音頭」

### 3. 事業の内容

平成22年度から3年間の「越前おおの地域づくり交付金事業」では、富田地区農地環境保全協議会が造成したビオトープに、むらづくり運動推進協議会集落委員を中心とした地区住民の協働作業により休憩所と観察棟を整備し、地区住民が集う「安らぎと憩いの場」づくりを行った。



むらづくり環境部員による除草作業  
休憩所（中奥・H22） 観察棟（右・H23）

とみた夏まつりでは、ビオトープの風景を題材としたフォトコンテストを開催し、地区住民にビオトープを周知するとともに、地域づくりの拠点として活用することをPRした。

また、富田小学校児童の環境学習と自然体験活動の場として積極的に利用され、子どもたちの弾んだ声が聞こえるとともに楽しそうな笑顔が見られ、活気に満ちた場所となっている。



ビオトープ観察会

さらに、平成23年度には4集落へ、平成24年度には9集落へ、それぞれが抱える問題を住民自らが解決する協働作業に対して支

援をする地域コミュニティ活動支援事業にも取り組んだ。



上野区イベントテーブル整備（H23）



塚原区安全柵修繕（H23）



七板区集落案内板改修（H24）





新河原区集落センター敷地改修 (H24)



井ノ口区集落センター安全柵修繕 (H24)

こうした取り組みにより芽生えた、住民が自らの力で課題を解決しようとする動きを今後の「結の故郷づくり交付金事業」に継承するため、平成25年2月26日に地区区長会とむらづくり協議会の役員13名による検討会を開催した。

検討会では、人のつながりが生まれるような事業や継続性のある事業の実施を望む意見が出されたほか、むらづくりのビジョンやキーワードについて意見交換がなされ、今後の取り組みが具体的に示された。

その一つは、未実施集落でのコミュニティ活動への支援である。富田地区18集落のうち5集落での取り組みがされていないことから、公平性を保つことから支援事業を継続することにした。意向調査の結果、25年

度には、2集落へ地域コミュニティ活動支援事業に取り組んだ。



新田区ゴミ集積ボックス更新 (H25)



新塚原区集落センター敷地改修 (H25)

二つめが、とみたのお宝発見・発信事業である。富田地区の名所や史(旧)跡、文化財、それらにまつわる言い伝えや民話、芸能、集落が自慢の話や場所などを「とみたのお宝」として掘り起しをし、住民が再認識するとともに後世に継承する。また、地区外へも情報発信することを目的として、平成25年度には、お宝情報の収集とそれを掲載したマップの作製に取り組んだ。



とみたのお宝マップ 解説面



とみたのお宝マップ 地図面



富田の史跡よもやま話講座  
(H25 結の故郷・人づくり講座)

25年度に実施した、とみたのお宝発見・発

信事業の第1弾となる「とみたのお宝マップ」の取り組みは、住民でさえも忘れていたり、気がないことであったものが、先達者や自らが育んだ、自慢のできる地区の「宝」であることへの気付きともなった。

ややもすれば、関心が薄れている、「宝」もあり、現地に出向いても、その名称や云われなどが全く解らないものも多くあることから、平成26年度には、とみたのお宝発見・発信事業の第2弾として「宝」の名称や言い伝えを記した案内看板の作製による環境整備に取り組むこととなった。

案内看板の作製にあたっては、「とみたのお宝マップ」と連動したものとし、記載の内容等を検討した。

その結果、案内看板には、その名称、所在、言い伝えなどを「マップ」の記載を基本とすることや、「マップ」に記している「お宝」番号を付すこと、また、「とみたのお宝マップ」を、大野市のホームページに掲載していることから、QRコードを記載することとし、案内看板の原案を作製した。

案内看板の作製は、その専門知識や技能を有する専門業者に依頼することとなったが、原案を基に、校正作業を行い、また、案内看板の設置場所についても、検討のうえ取り組んだ。





廻り地蔵



「とみたのお宝マップ」と同様のフォントを使用したり、マップに記載している番号を表示した。



富嶋の  
六地蔵



QRコードを表示し、大野市ホームページに掲載している「とみたお宝マップ」が簡単に閲覧できるように取り組んだ。

【平成27年度の取り組み】

「結の故郷づくり交付金事業」の最終年度となる3年目の取り組みの一つ目は、集落へのコミュニティー活動への支援継続であり、前年度までに未実施である3集落を対象とした意向調査の結果、27年度は、2集落で地域コミュニティー活動支援事業に取り組んだ。

取り組みの二つ目は、「結の故郷づくり交付金事業」の初年度から取り組んでいる「とみたのお宝発見・発信事業」である。これまで、「とみたのお宝マップ」の作成やお宝の名称や言い伝えを記した案内看板の作製設置を実施してきたところであり、このお宝をはじめ、富田地区の魅力や地区住民以外の来訪者にも広く情報発信するため「とみたのお宝発信事業」として、「とみたのお宝マップ」をベースとした、富田地区の案内看板の作製に取り組んだ。

・地域のお宝再整備事業（木落区）

木落区には、区内の白山神社境内に古くから伝わる「大將軍（だいじょうこ）の碑」があり、この碑は福井県内でも大野にだけ残っている珍しいものであるが、区民も碑の存在は知っていたが、その歴史や希少価値の認識が薄く、境内の片隅に置かれていたが、「とみたのお宝マップ」での紹介や市外の方からの助言もあり、この碑を移設し、台石に設置して再整備を行い、後世への継承・保存に取り組んだ。



白山神社境内の片隅に設置されている

「大將軍の碑」

境内左側の広場に移設し、台石に設置して  
「大將軍の碑」の再整備を行う

・地域のお宝環境整備事業（蕨生区）

蕨生区には、五穀豊穡と家内安全を祈願する伝統神事「里神楽」が約130年前から伝わっており、例年4月第2日曜日の埴安姫神社の春の祭礼で奉納している。

また、当区には、中部縦貫自動車道大野東インターチェンジや重点道の駅の整備等の新たな社会資本整備が計画されており、それに併せて、当区内の観光名所や周遊コースの整備に取り組んでいるところである。

今回、この整備の一環として、埴安姫神社の周辺の環境整備を図り、地区住民をはじめ来訪者の憩いの場所づくりとなる取り組みを行った。





埴安姫神社

神社周辺の整地を行い駐車場として利用予定



境内は古木や雑木等が散乱



雑木等を撤去し整備された境内



重機を借上げて行った神社周辺の整地作業



・とみたのお宝発信事業

これまで、「とみたのお宝マップ」の作成やお宝の名称や言い伝えを記した案内看板の作製を実施し、地区住民が、自分の住んでいる地区にある「宝」を再認識したところであるが、このお宝をはじめ、富田地区の魅力や地区住民以外の来訪者にも広く情報発信するため「とみたのお宝発信事業」として、「とみたのお宝マップ」をベースとした、富田地区の案内看板の作製に取り組んだ。

案内看板の設置場所は、県内唯一の百名山荒島岳の登山ルートの一つである中出コースを利用する際に登山者が使用する荒島岳蕨生駐車場と中出登山口駐車場に設置することと

し、富田地区の魅力を紹介するとともに富田地区内の簡易マップを表示することにより、登山者をはじめとする来訪者への利便性にも考慮した。



中出登山口駐車場に案内看板を設置



荒島岳蕨生駐車場に案内看板を設置

#### 4. 事業の成果

これまで、地域コミュニティー活動支援事業では、各集落でそれぞれが抱える問題を住民自らが解決する協働作業等を主に実施してきたが、「とみたのお宝発見・発信事業」の展開により、身近にあるふるさとの宝や良さを再認識し、これまで関心が薄く、手入れもされていなかった碑の再度整備を行い、後世に継承し、保全を図る事業が実施されたり、中部縦貫自動車道の整備など、今後の地区内の社会資本整備を見据え、新たな観光名所や周遊コース等の整備に取り組

むなど、地区の魅力を高める事業が推進されたことである。

また、「結の故郷づくり交付金事業」の当初から継続して取り組んだ「とみたのお宝発見・発信事業」では、初年度には、「とみたのお宝マップ」の作成、2年目には、「宝」の名称や言い伝えを記した案内看板の作製による環境整備、そして、27年度には、「宝」や富田地区の魅力を地区住民だけでなく、地区を訪れる来訪者に広く情報発信するための案内看板を作製した。

この継続した事業の取り組みは、住民でさえも忘れていたり、何気ないことであったものが、地区の大切な「宝」であることへの気付きとなり、自分の住んでいる地域への関心を持ち、地区の良さを再認識し、ふるさとへの自慢と誇りに思う気持ちが高まった。

#### 5. 今後の展望

平成27年度に実施された事業では、地区の「宝」を後世に継承するための保存活動や、一方では、これからの社会資本整備等を見据えた新たな観光名所づくりの取り組みが実施された。

「とみたのお宝発見・発信事業」の推進は、地区住民が地域への関心を持ち、ふるさとの良さを再認識し、誇りに思う気持ちを高めつつあり、この機運を醸成していくためには、さらなる地域づくりへの取り組みが必要である。

今後も、古くから伝わる伝統文化等の継承や新たな魅力づくり、地域コミュニティーの強化への取り組みを推進するため、集落活動への支援事業を継続し、地区の魅力を高め、その情報発信を図りながら、ふるさとの誇りと愛着を持ち、交流人口の増加等による地区の賑わいを創出する地域づくりの展開が求められる。